

福井県児童科学館(エンゼルランドふくい)

所在地	坂井郡春江町東太郎丸3-1		
設置年月日	平成11年6月1日		
施設の種類	児童厚生施設	施設管理主体	(福)福井県福祉事業団
設置の目的	遊び体験により児童の健康を増進し、情操をはぐくむとともに、科学に関する知識を提供して科学に対する児童の関心や理解を深め、児童の健全な育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	本館：鉄骨鉄筋コンクリート造り、地上2階(一部3階)、延べ6,849㎡、プレイエリア、展示エリア、センターエリア(スペースシアターなど) 別館(太陽と風の砦)：鉄筋コンクリート造り、地上2階、延べ170㎡ 屋外公園：芝生広場、大型遊具(こどもの村、こどもの雲)、単体遊具		
管理運営担当職員数	職員 7人	派遣6人	嘱託 8人 アルバイト 1人 計22人

施設の特徴	開館以来、宇宙飛行士の毛利衛氏を名誉館長とし宇宙・科学に関する内容を充実するとともに、さまざまな地域や環境の文化を学ぶことで、子どもたちが発見や感動を通じ、地球や宇宙について考える機会を提供している。
	展示エリアでは、宇宙や科学、自然について子どもたちが直接遊び、学ぶことができる体験型の展示装置が数多く設置されている。
	当施設は、一部を除いて無料であり、県内の多くの親子が利用しやすい施設となっている。また、屋外広場には、全国でも数少ない大型遊具が設置されており、その人気も高い。 遠足などで県外から262団体が来館するなど、本県の観光資源としても重要である。
	当館は青少年に対する宇宙および科学に関する知識と啓発活動を目的とした(財)日本宇宙少年団福井支部としての活動を行っているが、その分団として地元春江町の小学校すべてに参加していただくなど、地域との連携を図っている。 地元小中学校が社会奉仕活動として当館の清掃等を実施しており、社会教育の一環としても役立っている。

行政コスト計算書(平成15年度) (単位 千円)

		総額	構成比
人にかかるコスト	人件費	94,333	10.6%
	退職給与引当金繰入	8	0.0%
	計	94,341	10.6%
物にかかるコスト	物件費	287,585	32.5%
	維持補修費	702	0.1%
	減価償却費	352,635	39.8%
	計	640,922	72.4%
その他	公債費利子	150,621	17.0%
	その他	400	0.0%
	計	151,021	17.0%
合計		886,284	100.0%

バランスシート(平成15年度末現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産		負債	
有形固定資産	8,992,894	固定負債	5,425,289
投資等	58,232	流動負債	688,090
流動資産	0	正味資産	2,937,747
計	9,051,126	計	9,051,126

平成15年度の活動実績	スペースシアターでは、子どもが天文に興味を持てるような投影に努めた結果、特に恐竜を用いた映画やアニメキャラクターを用いたプラネタリウム番組が人気を集め、年間約42,000人の利用があった。
	コンピュータールーム・クラフトルームでは、月ごとに変わるプログラムに加えて、春休み、夏休み期間中には特別教室を実施し、遊びながら体験、創作ができる内容を提供した。平成15年度はコンピュータによるお絵かき創作、特殊なプラスチックやどんぐり等の自然のものを素材とした創作等を新たに取り入れ、年間約80,000人が利用した。
	サイエンス・ラボでは、子どもたちに科学の心が育まれるように毎月プログラムを変えて科学実験ショーを開催し、年間約23,000人が利用した。 通常の展示や教室にはない内容で実施する企画展を、15年度は「音」や「風船」などをテーマとし年3回実施し、約63,000人と多くの親子や子どもたちの来館があった。 県内の児童館・児童センターの施設職員や放課後児童クラブの指導員に対する研修を実施している。 各エリアで提供される内容の工夫に努めたことにより、多くの方に繰り返し来館していただくことができた。

(単位 千円)

収入 (15年度)	利用料等収入	14,944	1.7%
	その他収入	11,289	1.3%
	一般財源	860,051	97.0%

利用料等収入計	14,944,000 円
利用者1人あたり平均利用料	43 円
利用者1人あたりコスト	2,534 円

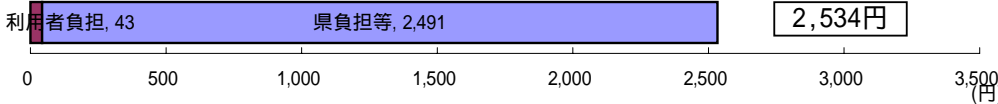
利用状況等

	13年度	14年度	15年度
入場者数(人)	350,209	346,790	349,710
企画展入場者数(人)	90,423	106,501	62,725

利用者負担(利用料金)等

観覧料 (スペースシアター)	一般	500円
	小中学生	250円
	幼児	100円
"(展示)	一般	100円

利用者1人あたりのコストの状況(15年度)



今後の事業方針・取組み内容	常に新たな企画内容を取り入れ、県内の親子に何度でも来館してもらえるよう、ソフト面を充実していく。
	開館から5年を経過していることから、これまでに蓄積された県民ニーズを踏まえ、子どもが利用する施設として安全で楽しめる施設運営を行っていく。
	県内の児童館・児童センターの中核施設として、これらの施設の連携や職員の資質向上を図るとともに、県内の子育て家庭に対する支援をより一層充実していく。